



病院だより



大間病院

内科医長 中崎 真也

皆様初めまして。大間病院内科の中崎真也と申します。出身は八戸市で、栃木県にある自治医科大学を卒業しました(なお、大間病院の常勤医師6名は全員自治医科大学の卒業生です)。

自治医科大学は全国のへき地医療を担うべく設立された大学で、卒業後9年間は出身地県内のへき地医療を使命とする大学です。私は卒業後2年間の青森県立中央病院での初期研修を終えて、4月から大間病院勤務となりました。まだまだ、地域のことも医療のことも知らないことばかり、未熟ではありますが、何事に関しても精一杯精進して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

話はがらりと変わって。軽症の傷について。例えば軽いやけどや擦り傷、切り傷について、最近では治療方法が変わってきています。一昔前には、傷は消毒して乾燥させてカサブタを作れば治ると言い伝え(?)られてきました。ところが、最近では傷の消毒はせず(消毒すると正常の皮膚細胞も傷められてしまう)水道水で洗って(傷によっては滅菌水での洗浄が必要となりますが、日本の水道水は世界一きれい! 滅菌水が必要かどうかの判断はいつでもご相談ください)湿潤環境にするときれいに治るという方法も提唱されています。小さい傷に関して、どうやって治療していけばいいのか? そういった素朴な疑問に関して、患者さんと一緒に考えながら治療を行っていきたいと考えています。傷の治療に限定することなく、当院では様々な健康に関する悩みを患者と共有して、治療に関して一緒に考えていければと感じております。

私自身のモットーとして、医者と患者の間に壁を作るのではなく、常に一緒に病気に立ち向かうという気持ちでいたいと考えています。どんな些細なことでも、一度当院へお越しただいて、ご相談いただければと思います。

これからしばらく、どうぞよろしくお願い致します。

住民福祉課から

アックス・グリーンへのごみの直接持ち込みについて(お願い)

一般廃棄物等処理施設「アックス・グリーン」では、年々ごみの直接持ち込みの件数が増加しており、操業開始時と現在とを比較すると、特に個人搬入については、年あたり約15,000台もの台数増加となっています。

この搬入台数増加により、慢性的に渋滞が発生し、収集運搬車両(パッカー車など)や構内作業車両(フォークリフトなど)の円滑な通行が困難になってきていることから、ごみ処理に大きな支障が出ている状況です。

搬入されるみなさんの構内での安全確保、特に、重大な交通事故などの防止がなされるよう、また、施設の円滑な運営のためにも、次の事項についてご理解とご協力をお願いします。

1. 家庭から出されるごみについては、直接アックス・グリーンへ持ち込まず、収集日や分別ルールを守って、所定の集積場所へ出されるようお願いいたします。
2. 直接持ち込みは、袋に入らない粗大ごみに限るようお願いいたします。
(佐井村の場合は、ごみ搬入許可証が必要となります。)
3. 極力、収集運搬車両が搬入する時間帯を避け、午後(正午から4時30分頃まで)からの持ち込みとするようお願いいたします。

※燃えないごみの袋に、本来資源ごみであるはずの缶類・ビン類が混入している場合が多く見られます。「ごみの分別」は出される方(排出者)の責任です。必ず守っていただくようお願いいたします。ご不明な点は、下記までお問合せください。

【お問合せ】住民・環境部門 担当:品田